

長野県史跡 飯山城跡

遺構確認調査報告



2002・3

飯山市教育委員会

長野県史跡 飯山城跡

遺構確認調査報告

2002・3

飯山市教育委員会

例 言

- 1 本書は、長野県飯山市大字飯山2756番地ほかに所在する飯山城跡遺構確認調査の報告書であり、あわせて県の補助金を受けて文化財保護事業として行った石垣修理計画策定のための確認調査報告も掲載している。
- 2 遺構確認調査は飯山市が単独事業として行い、飯山市教育委員会主体となって平成13年6月11日より同年8月19日まで実施した。
石垣修理に伴う調査は、石垣修理計画策定事業の一環として県補助を受け、平成13年11月5日より同18日まで実施した。ただし、本報告書は補助事業対象外である。
- 3 発掘調査に伴う組織・関係者は以下のとおりである。

事業主体者	小山 邦武	飯山市長
発掘調査指導	笹本 正治	長野県文化財保護審議委員
調査団長	高橋 桂	飯山市文化財保護審議会会長
調査主任	長瀬 哲	飯山市文化財保護審議委員
調査担当者	望月 静雄	飯山市教育委員会事務局
調査参加者	万場義秋・高橋喜久治・高橋武・岩井伸夫・宮本鈴子 阿部智子・藤沢和枝・水野翔	
事務局	清水 長雄	飯山市教育長
	市川 和夫	飯山市教育次長
	米持 五郎	市教育委員会生涯学習課長
	丸山 一男	市教育委員会生涯学習課長補佐兼社会教育係長
	望月 静雄	生涯学習課社会教育係
	市村 真理	〃
	山本 伊都子	〃
	藤沢 和枝	市埋蔵文化財センター職員
- 4 検出された遺構は、確認面において調査を終了した。礎石や土抗等検出されたが、遺構内を調査することはせず、遺構面に砂を入れてその上に盛土した。したがって、遺構は現在でも保護されている。
- 5 調査において下記の機関・諸氏からご指導をいただいた。記して厚く御礼申し上げます（順不同・敬称略）。
長野県教育委員会文化財・生涯学習課（吉岡埋蔵文化財係長・出河指導主事）、郷道哲幸（県立歴史館）、宮下健司（飯山市立第一中学校）、髙ミズ総合コンサルタント、髙文化財保存計画協会
- 6 本報告書は、高橋桂調査団長の指導をうけて市教育委員会事務局が作成した。
- 7 調査に伴う図面・出土遺物は、飯山市埋蔵文化財センターで保管している。

目次

I 概要	1	望月 静雄	1
1 飯山城の概要	1		1
(1) 位置と沿革	1		1
(2) 飯山城の考古学的調査	1		1
2 調査の経緯	4		4
(1) 確認調査に至るまでの経緯	4		4
(2) 石垣修復に伴う発掘調査に至るまでの経緯	4		4
(3) 確認調査及び石垣修理に伴う発掘調査の経過	4		4
II 各調査区の概要	6		6
1 調査区の設定	6		6
(1) 調査区	6		6
(2) 調査区の概要	8		8
2 本丸・帯曲輪	9		9
(1) 本丸Aトレンチ	10		10
(2) 本丸Bトレンチ	12		12
(3) 本丸Cトレンチ	12		12
(4) 本丸Dトレンチ	14		14
(5) 本丸Eトレンチ	14		14
(6) 本丸Fトレンチ	16		16
(7) 本丸Gトレンチ	16		16
(8) 帯曲輪Aトレンチ	16		16
3 二の丸	19		19
(1) 二の丸A・Bトレンチ	20		20
(2) 二の丸Cトレンチ	24		24
(3) 二の丸Dトレンチ	24		24
(4) 二の丸Eトレンチ	24		24
4 三の丸	28		28
(1) 三の丸Aトレンチ	29		29
5 遺構の配置	30		30
III 出土遺物	31		31

図目次

図1 飯山城跡周辺地形図 (1:2000)	図4 調査区位置図 (1:1000)
図2 飯山城内絵図 (近世後期絵図写)	図5 本丸・帯曲輪トレンチ位置図 (1:400)
図3 南中門(左)及び駕籠部屋(右)規模模式図 (1:200) 単位はcm	図6 本丸Aトレンチ平面図 (1:40)
	図7 本丸B・Cトレンチ平面図 (1:40)

- 図8 本丸D・Eトレンチ平面図 (1:50)
 図9 本丸F・Gトレンチ平面図 (1:50)
 図10 帯曲輪Aトレンチ平面図 (1:50)
 図11 二の丸トレンチ位置図 (1:400)
 図12 二の丸A・Bトレンチ平面図 (1:120)
 図13 二の丸御殿間取り図及びトレンチ設定対照
 図 (1:200)

- 図14 二の丸Cトレンチ平面図 (1:40)
 図15 二の丸Dトレンチ平面図 (1:50)
 図16 二の丸Eトレンチ平面図 (1:50)
 図17 三の丸トレンチ位置図 (1:400)
 図18 三の丸Aトレンチ平面図 (1:40)
 図19 確認遺構位置図 (1:2000)

写真目次

- 写真1 6月28日 第二中学校生徒による体験学
 習
 写真2 8月13日 現地見学会
 写真3 調査後の砂による遺構保存
 写真4 本丸Aトレンチ近景
 写真5 本丸Aトレンチ割栗石1
 写真6 本丸Bトレンチ出土礎石
 写真7 本丸Cトレンチ調査風景
 写真8 本丸Cトレンチ
 写真9 本丸Dトレンチ
 写真10 本丸Eトレンチ
 写真11 本丸Eトレンチ出土根石
 写真12 本丸F・Gトレンチ調査風景
 写真13 本丸Fトレンチ
 写真14 本丸Gトレンチ推定本丸門礎石
 写真15 本丸Gトレンチ石垣列

- 写真16 帯曲輪Aトレンチ
 写真17 二の丸調査風景 (本丸より)
 写真18 二の丸Aトレンチ遺構検出状況
 写真19 二の丸Aトレンチ割栗石及びビット
 写真20 二の丸Bトレンチ遺構検出状況
 写真21 二の丸BトレンチII層上面のキャクピラ
 痕
 写真22 二の丸Cトレンチ遺構検出状況
 写真23 二の丸Dトレンチ
 写真24 二の丸Eトレンチ
 写真25 三の丸調査風景
 写真26 土器・石器
 写真27 陶磁器
 写真28 陶器摺鉢
 写真29 陶器片口鉢
 写真30 煙管・銭貨

I 概 要

1 飯山城の概要

(1) 位置と沿革

長野県史跡「飯山城跡」は飯山市街地のやや北寄りにあり、千曲川西岸の比高差約35mの独立丘陵全体を利用して構築されている。

飯山城は、武田信玄の北信濃への侵攻に対抗して、上杉謙信が信濃経営の前線基地として、永禄7(1564)年に本格的築城したといわれている。天正11(1583)年上杉景勝の支配となって、飯山城留守役であった岩井備中守信能に命じて城の改修と城下町の建設を行なった。

城郭は、千曲川の高い断崖を背にした丘陵南端の最上部に本丸を置き、北側に向かって階段状に二の丸、三の丸を配置した平山城である。二の丸から本丸へ上る入り口には枳形が配置されている。本丸の西は緩やかで、帯曲輪、さらに西の一段下に西曲輪を配置している。

築城当初は、越後方面に通じる北側に大手門があったとされ、城下町建設に伴って南側に大手門が移されたらしい。

近世後期の絵図(図2)によれば、城郭の周囲を水濠がめぐり、城内は、南大手門から西郭の西をまわって、御用所(榎蔵・合羽蔵・焙硝蔵などがあつた)を通り、南中門から三年坂とよばれていた坂を上り三の丸・二の丸を経て本丸に至る。三の丸には、二重櫓・榎蔵・武器蔵があり、二の丸には二層の門・二の丸御殿などがあつた。本丸には二重櫓、文庫蔵などの土蔵があつたとされている。また、北門から北中門に至る城内には、御長屋・御台所があつた。西曲輪には、藩主の私邸があつたという。

明治4年の鹿藩置県に伴い、日本各地で城の解体が行なわれた。飯山城も、門や櫓・御殿などの建築物のうち一部は焼失したが、門などは解体されて払い下げられた。現在、濠は埋め戻されて駐車場などになっている。また、西曲輪には市民会館が、南中門付近には弓道場が、御用所には武道館がそれぞれ建てられている。また、その他の部分については城山公園としての整備が行なわれている。しかし、全体としては平山城ということもあり、飯山城の規模や縄張りについては現在でも確認できる。

本丸と二の丸は、昭和47年長野県史跡に指定されている。

(2) 飯山城の考古学的調査

飯山城の考古学的調査は、平成4年に行なわれた弓道場建設に伴う緊急発掘調査が最初である。近世には南中門・駕籠部屋・番所があつた場所である。当初は、明治以降民家や畑として利用されていた場所であり、遺構が残されている可能性は少ないと思われたが、発掘の結果、南中門や駕籠部屋などの建物跡が古絵図などに示されていた場所から検出され、その規模も古文書の通りであることが明らかになった。南中門は五間×二間半、下坪約30坪の規模で、入り口扉は11尺と想定された。番所跡は規模を明確にする事ができなかったが、6間×2間半の建物が想定された。駕籠部屋は6間×2間で、間取りも推定する事ができた。

このように、城内の遺構を確認することができたため飯山市では弓道場の設計変更を行い、南中門跡を保存する事とした。遺構に盛土を行い、その上に礎石を置いて視覚的に門の規模や位置が分かるように展示している。

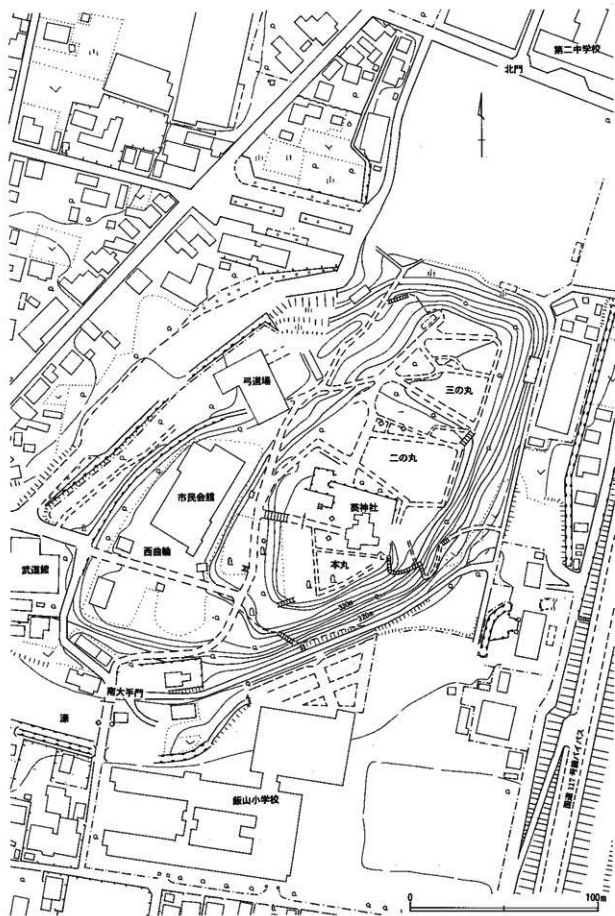


図1 飯山城跡周辺地形図 (1:2000)

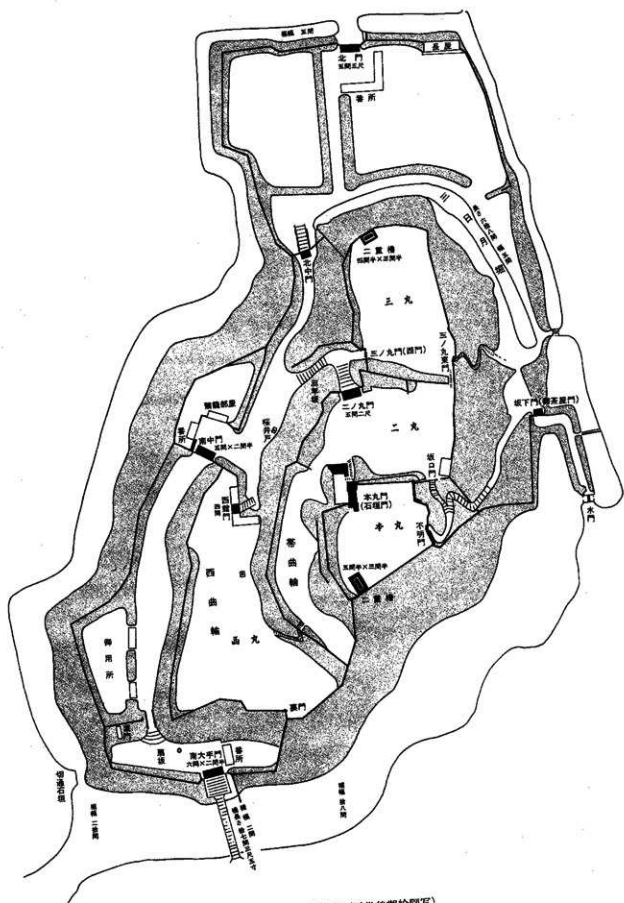


图2 叡山城內繪圖 (近世後期繪圖寫)

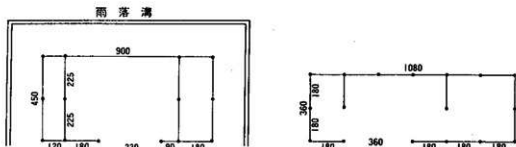


図3 南中門(左)及び駕籠部屋(右)規模模式図(1:200)単位はcm

2 調査の経緯

(1) 確認調査に至るまでの経緯

飯山城跡は、飯山市では「城山公園」として位置付け、建設部都市計画課で管理している。現状は市民の憩いの場として多くの市民が訪れるが、特に桜の花見シーズンには賑わいを見せる。一方、文化的には飯山城全体が遺跡として保護されるべきのものであり、特に本丸・二の丸は県史跡となっている。現在視覚的に城として認識できるものは、本丸の枳形や石垣のみであり、市としても「城」としての保護・活用を考えていくことが必要となっていた。そのため、市教育委員会では教育委員会としての保護・活用案を検討し、その案により庁内関係課との調整を図る中で市としての方針あるいは計画を策定していくこととなった。

市教育委員会では、飯山城の整備・活用案を検討するにあたり、実際にどの程度遺構が残されているのか明らかにする事がまず必要だということになった。これまで、南中門周辺調査により、その部分のみ遺構を明らかにすることができたが、他の部分、特に本丸・二の丸・三の丸については、昭和34年頃に公園化整備を実施したこともあり、遺構についてはまったく把握されていなかった。

そのため、飯山城の中心的な建築物であった二の丸御殿及び三の丸・本丸の二重櫓の遺構確認を中心とした発掘調査を市の単独事業として実施することとなった。

(2) 石垣修復に伴う発掘調査に至るまでの経緯

飯山市は、県城跡「飯山城跡」の石垣に歪みや膨らみがみられることから、多くの人が訪れる公園として危険であるとして修理工事を実施することとした。県補助事業として、平成12年度から3ヵ年事業として計画し、平成12年度は石垣現状測量調査、平成13年度は石垣現状調査及び修理計画の策定、そして14年度に修理工事を実施することとした。

今年度の修理計画策定は、縄文化財保存計画協会に委託して実施した。そして、14年度予定の修理工事においては、排水工事や石垣の補強を行なう計画を立てたが、石垣の下端レベルの把握や失われたと想定される部分の状況を把握する必要が生じた。修理計画策定のための発掘調査を行なうこととした。本報告書以外の発掘事業は補助事業で行なった。

(3) 確認調査及び石垣修復に伴う発掘調査の経過

2件の発掘調査は、事業の目的も性格も異なったものであるが、一括して記述していく。
平成13年5月30日 県教育委員会教育長宛、県史跡飯山城跡の現状変更許可申請書を提出。

6月11日 県教育委員会指令13教文第13-5号により許可通知がある。

発掘調査を開始。

- 6月28日 飯山市立第三中学校生徒発掘体験学習。
- 7月13日 笹本正治県文化財保護審議委員・県教委吉岡埋蔵文化財係長・同出河指導主事による現地指導。
- 8月9日 調査団会議。笹本顧問、高橋団長、長瀬調査主任ほか出席。現地及び会議室において、成果等を報告する。
- 8月13日 現地見学会開催。
- 9月10日 発掘調査・埋め戻し・芝張り作業終了。
県教育委員会宛、石垣修理に伴う長野県史跡現状変更等許可申請書を提出する。
- 9月13日 埋蔵物発見届ならびに保管証、発掘終了報告をそれぞれ提出する。
- 9月19日 長野県教育委員会指令13教文第13-10号で許可の通知がある（石垣修理に伴う調査）。
- 11月5日～16日 石垣修理のための発掘調査を実施する。
- 11月20日 埋蔵物発見届ならびに保管証、発掘終了報告をそれぞれ提出する。



写真1 6月28日 第三中学校生徒による体験学習



写真2 8月13日 現地見学会

II 各調査区の概要

1 調査区の設定

(1) 調査区

1) 遺構確認調査(図4)

今回の調査の目的は、飯山城の中核である三の丸・二の丸において、過去に公園整備等が行なわれていたため遺構が残されているのかどうか確認することが目的であった。また、本丸も明治期の神社建立や、飯山町時代に上水道貯水施設が建設されていたため、やはり近世遺構が残されているのかどうか確認する必要があった。

調査にあたっては、

- ① 調査区はなるべく小範囲に限定して、遺構を確認するだけで壊さない。
 - ② 確認した遺構は図化するが、確認面のみの調査にとどめる。
 - ③ 埋め戻しには、砂を入れて遺構を保護し、将来の再調査に支障のないようにする
- の三点を基本姿勢とした。

本丸は、近世後半において二重櫓と土蔵が建てられていたくらいで、あまり活用されなかったらしい。そのため、二重櫓位置の確認・近世初期にあったとされるもう一基の二重櫓の確認、不明門があったとされる場所の確認の3地点とした。トレンチは、既存構造物を避けるとともに、古絵図に記されている場所近辺に任意のトレンチを設定した。

二の丸は、城の中核で御殿があった場所である。御殿跡の確認及び二の丸門の位置の確認の2地点を調査する事とした。現況は通路・記念物以外芝が張られており、これも任意で御殿付近に並行するトレンチ2本、門推定地にこれも任意に1箇所調査区を設けた。

三の丸は、現在花公園となっており調査地点が限られていたが、二重櫓があったとされる北西隅1箇所を調査する事とした。

2) 石垣修理に伴う発掘調査

修理計画策定を委託した㈱文化財保存計画協会より、策定のために調査の必要な箇所について依頼のあった箇所は6地点であった。遺構面レベルの確認が主体であったが、トレンチを設けた帯曲輪Aトレンチ及び本丸E・F地点は石垣が失われている場所であり、石垣ラインの確認もあわせて目的としていた。

トレンチの名称は、飯山巖が市単事業として13年6月から8月にかけて実施した確認調査のトレンチ番号の続きを付した。二の丸でのトレンチはDから、帯曲輪はA、本丸はDからとなっている。

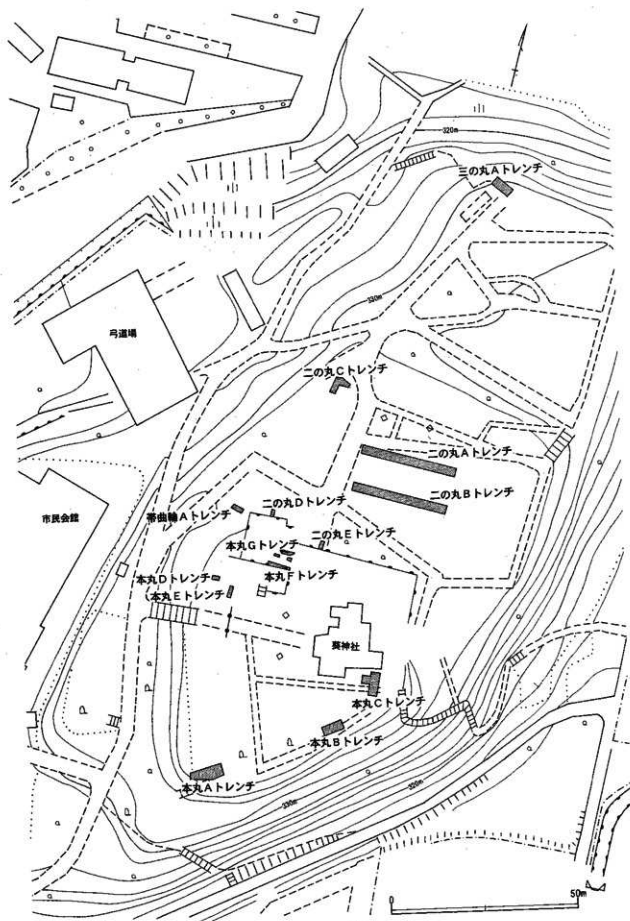


図4 調査区位置図 (1:1000)

(2) 調査区の概要

各トレンチの概要一覧は下表のとおりである。

トレンチ名称	調査面積	確認遺構	発見遺物	備考
本丸 A	21.5	二重槽跡	陶磁器・土器・銭貨	遺構確認調査
本丸 B	10	礎石・土杭・ピット	陶磁器・土器	遺構確認調査
本丸 C	16	不明	陶磁器・土器	石垣修理調査
本丸 D	2		陶磁器	石垣修理調査
本丸 E	3		陶磁器	石垣修理調査
本丸 F	5.5	石垣下端	陶磁器	石垣修理調査
本丸 G	7.2	石垣列・本丸門礎石	陶磁器	石垣修理調査
帯曲輪 A	7.2	石垣	陶磁器・鉄製品	石垣修理調査
二の丸 A	50	二の丸御殿跡	陶磁器・鉄製品	遺構確認調査
二の丸 B	50	二の丸御殿跡	陶磁器・鉄製品	遺構確認調査
二の丸 C	6.7	二の丸門跡	陶磁器・鉄製品	遺構確認調査
二の丸 D	2	石垣下端	陶磁器	石垣修理調査
二の丸 E	3	石垣下端・根石	陶磁器	石垣修理調査
三の丸 A	10		陶磁器・鉄製品	遺構確認調査
計	194.1㎡			

表1 各トレンチ調査状況



写真3 調査後の砂による遺構保存

2 本丸・帯曲輪

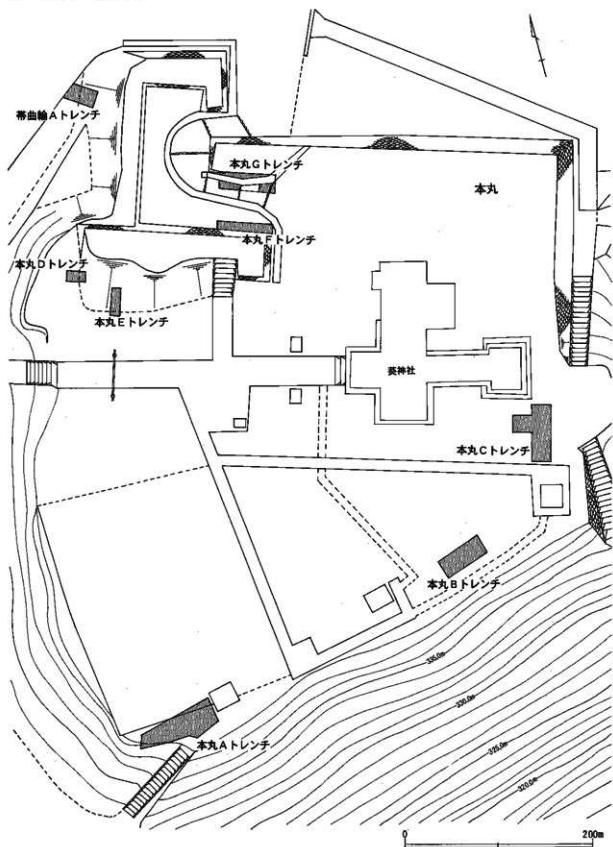


図5 本丸・帯曲輪トレンチ位置図 (1:400)

(1) 本丸Aトレンチ (写真4・5・図6)

本丸の西南隅に、 2×4 mのトレンチを設定したが、後にやや拡大した。このトレンチ付近より北側の平坦地に、かつて 50m^2 以上の上水道タンクが建てられており、地下もかなり深く削土されたことから、二重櫓跡が確認されてもごく一部だろうと推測された。

調査区は、予想通り北側約半分において上水道施設の痕跡と思われるコンクリートブロックや鉄筋の一部が検出され、調査確認面よりかなり深くまで破壊されている事が伺えた。南側においては、二重櫓の基礎の割栗石と思われる小石集中箇所が3箇所検出された。西側割栗石はよく残っており、北側に接して続く部分は破壊されている。東側割栗石は一部のみ残されていたが、この間の寸法は中心で約 4.5m である。

二重櫓の規模は、古絵図等で5間半 \times 3間半と記載されており南北に長かったらしい。西側の割栗石1が位置的にも二重櫓の西南隅基礎と思われることから、割栗石2に向かって2間半、また割栗石1の北に接する割栗石3の方向へ5間半といった部分が二重櫓の位置と推定される。

なお、南側の切岸にかかる黒色土の部分は造成等された形跡がなく、弥生式土器が出土している。



写真4 本丸Aトレンチ近景



写真5 本丸Aトレンチ割栗石1

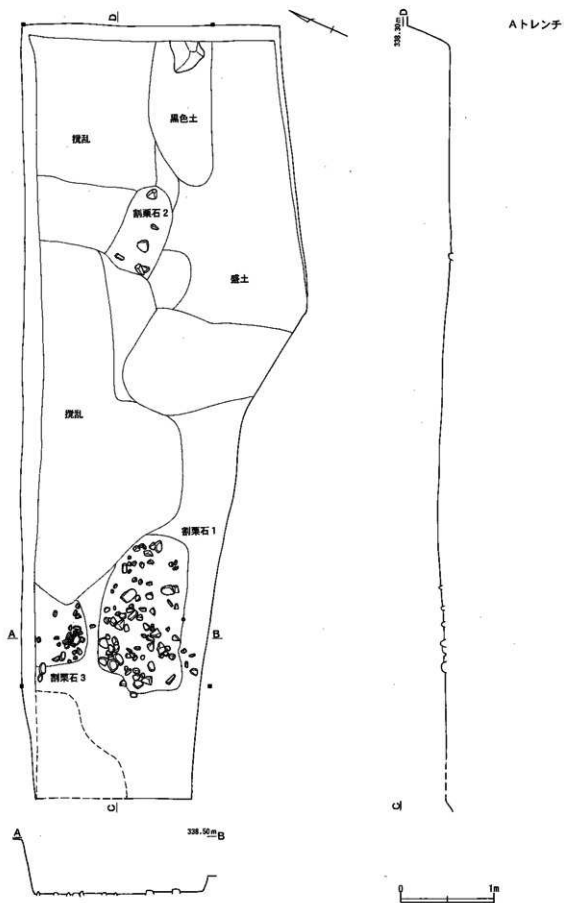


図6 本丸Aトレンチ平面図 (1:40)

(2) 本丸Bトレンチ (写真6・図7)

近世後期の古絵図には記載されていないが、松平時代の正保の絵図などには東南隅あるいは南端のやや東寄りに記載されている。現状では東南端に記念碑等があって調査できないため、南端のやや東よりの部分にトレンチを入れた。

トレンチは、任意の4×2mで設定した。約40cm掘り下げたが、調査区西南隅付近で比較的大きな平石を検出した。調査区南側には歩道施設があったため拡張はできなかったが、礎石の可能性もある。また、ほぼ中央に土杭状の落ち込み、東側にビット状の落ち込みを確認したが、いずれも上面確認だけで遺構内の調査は実施しなかったため、各遺構の性格については不明である。

Aトレンチと同様に弥生式土器が若干出土している。

(3) 本丸Cトレンチ (写真7・8・図7)

本丸の東端であり、不明門があったとされる場所付近である。実際にはもう少し南隅の位置と考えられたが、記念碑等が建立されているため当該地とした。

トレンチの規模は6×2mで、さらに東に2m延長したので凸状の調査区となった。

調査の結果、建物の割栗石と考えられる石のまとまりが1箇所検出されたが、他にまとまりを有しているものはなく、遺構については明確にし得なかった。



写真6 本丸Bトレンチ出土礎石



写真7 本丸Cトレンチ調査風景



写真8 本丸Cトレンチ

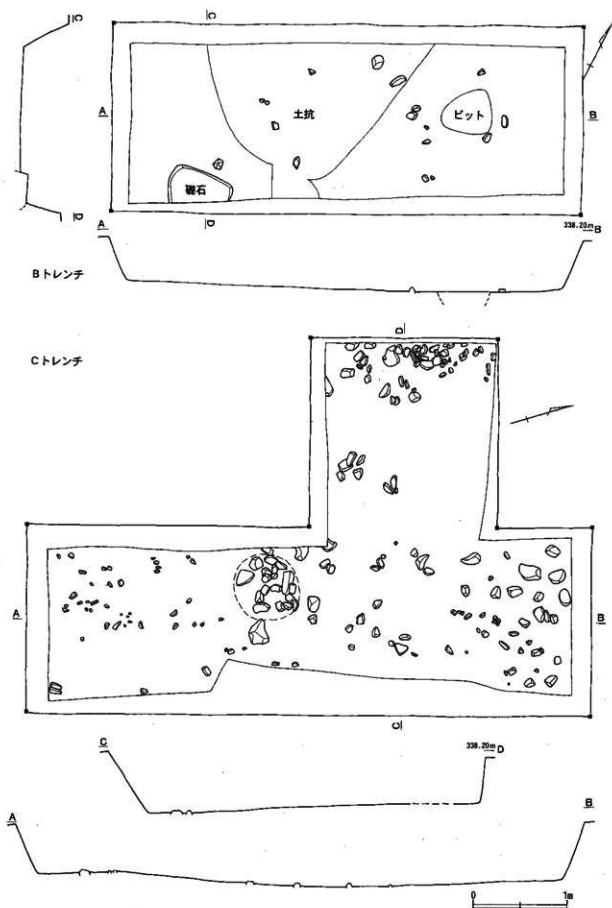


図7 本丸B・Cトレンチ平面図 (1:40)

(4) 本丸Dトレンチ (石垣修理に伴う調査) (写真9・図8)

本丸の最も高い石垣の西側部分で、途中で石垣が途切れ、内側の土砂の流出が激しいところである。

石垣が続いていたとすれば、どのようなラインであったかを確かめるためにトレンチを入れた。トレンチ規模は 2×1 mである。結果、裏込め石の残りかと思われる小礫を検出したが、石垣ラインについては不明であった。ただし、調査区はかなり下位まで攪乱されている事が確かめられたので、後世に石積みを撤去したのではないかと推測される。

(5) 本丸Eトレンチ (石垣修理に伴う調査) (写真10・11・図8)

本丸Dトレンチと同様の場所で、旧土塁南側を形成する部分である。やはり古絵図には石垣が記載されているものもあり、その確認を目的としてトレンチを入れた。トレンチ規模は、 3×1 mである。結果、上方は暗黒色土層・黒色土層・テフラ層と層序になっており、上層の暗黒色土層は築城時の盛土であるかもしれないが、以下はまったく攪乱されていない土層であった。トレンチ南端より石のまとまりが確認されたが、あるいはこれが石垣の根石あるいは土留め押さえ石の可能性がある (写真11)。



写真10 本丸Eトレンチ

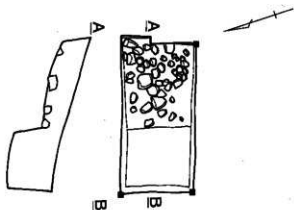


写真9 本丸Dトレンチ



写真11 本丸Eトレンチ出土根石

Dトレンチ



Eトレンチ

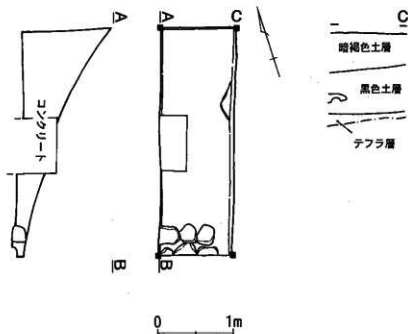


図8 本丸D・Eトレンチ平面図 (1:50)

(6) 本丸Fトレンチ (石垣修理に伴う調査) (写真12・13・図9)

本丸門の石垣で、北に面する部分である。石垣レベル確認のためにトレンチを入れた。トレンチ規模は、 6×1 mである。結果、二の丸Dトレンチと同様に地表面に見える石が最下の石で、その下には安定させるための小石が部分的に入れられているのみである。

(7) 本丸Gトレンチ (石垣修理に伴う調査) (図9・写真14・15)

虎口から本丸門に向かって左側、現状では石積みが僅かに認められる部分である。この石積みが続くのかどうかについて確認するためにトレンチを入れた。また、虎口内にかつてのコンクリート排水施設が機能を果たさずに残されているために、撤去に向けてその下層の状況も把握することとした。トレンチ規模は 6×2 mで設定したが、コンクリート排水施設や石段があったため調査可能部分のみを発掘した。

結果は、石積みが続いていることが判明したとともに、本丸門と思われる礎石も検出した。石積みは最後まで検出できなかったものの、様相から本丸門まで続いていたものと考えられる。なお、通路中央部分については約1 m掘り下げたが遺構等は発見されなかった。

(8) 帯曲輪Aトレンチ (石垣修理に伴う調査) (図10・写真16)

二の丸Eトレンチの石垣の西に接する部分で、古絵図等に石垣は記載されているが、現状は石がまったく認められない。そのため、石垣の存否等を確認するためトレンチを入れた。トレンチの規模は、 4×2 mであるが、コンクリートの縁石があったために下端の一部は調査できなかった。

調査結果は、斜面上に石垣の一部と思われる大きな石が確認され、裏込めの小礫なども発見された。このため、かなり破壊を受けているものの、かつてこの部分には石積みがあったものと考えられる。



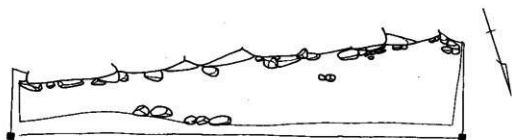
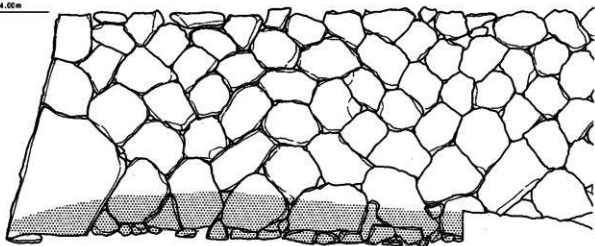
写真12 本丸F・Gトレンチ調査風景



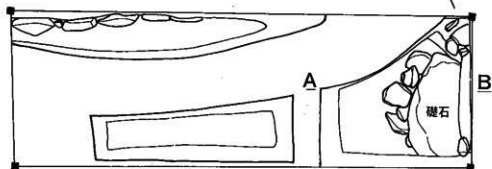
写真13 本丸Fトレンチ

Fトレンチ

344.00m



Gトレンチ



0 1m



図9 本丸F・Gトレンチ平面図 (1:50)

帯曲輪Aトレンチ

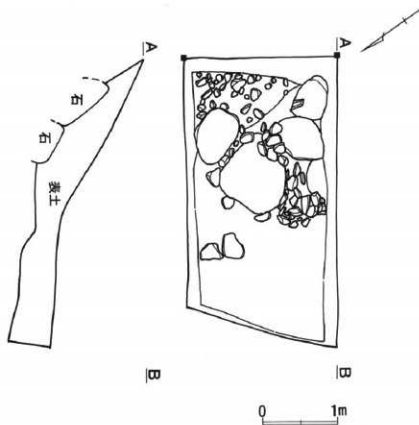


図10 帯曲輪Aトレンチ平面図 (1:50)



写真14 本丸Gトレンチ推定本丸門礎石



写真15 本丸Gトレンチ石垣列



写真16 帯曲輪Aトレンチ

3 二の丸

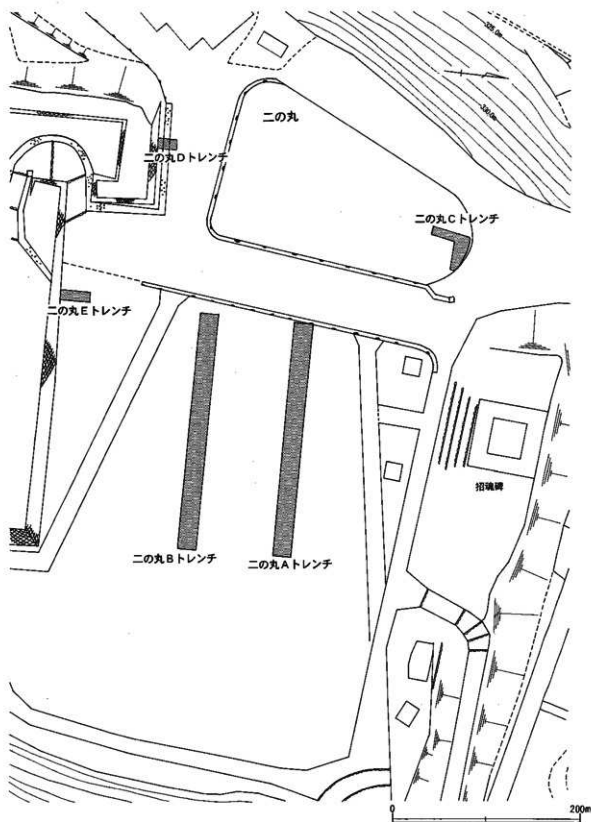


図11 二の丸トレンチ位置図 (1 : 400)

(1) 二の丸A・Bトレンチ (写真17～21・図12・13)

確認調査において最も主体とした箇所、二の丸御殿跡の痕跡を把握する事を主眼とした。また、200坪にも及ぶ大きな建物であるので、おおよその配置を確認するために2×25mトレンチを2本設定することとした。

調査区は、二の丸の形状に合わせて任意に設定したが、二本のトレンチはAトレンチの北隅を基準として東に25m、南に2m、さらに10m南に延ばしてBトレンチ北隅杭とした。したがって、A・Bトレンチは同一グリットとなる。また、後に国家座標も設定した。

調査は、Aトレンチから着手した。表土は20～40cmの盛土となっていた。これは、昭和30年代に行なわれた公園造成整備により盛られたものと考えられる。現在、当時の工事書類を見つけれないため詳細は不明であるが、おそらく周りに巡っていた土塁等を削土して埋め立てたのではないかと推測される。また、BトレンチではI層とII層の境界面において、重機のキャタピラ痕が明瞭に確認できている(写真21)ので公園造成整備時に行なわれたことは間違いがないだろう。II層は旧表土で黒色土である。層厚が浅いため、造成時に若干削土された可能性がある。II層下面において割栗石等を確認した。割栗石確認面においてもガラス片等が出土していることから、II層の約15cmは幕末～昭和30年代までの包含層ということになる。また、西側よりも東側に行くにしたがって遺存状態は良い。

検出された遺構は、二の丸に建てられた最後の建築物の割栗石と考えられ、規模からも古絵図・古文書で示されている二の丸御殿であると考えて間違いないだろう。なお、各割栗石はほとんどがビット状になっており、少し掘り込んで小石を詰め込みその上に礎石を乗せたものと考えられる。割栗石の周囲は焼土を伴うなど明らかに焼けた痕跡をとどめていた。これが明治5年の二の丸御殿焼失に関係するものかどうか即断できない。ビット内については、今回の目的から確認しただけで調査は実施しなかった。

確認された割栗石の配列は図12の通りで、最も遺存状態の良い割栗石はAトレンチP1からP9の付近である。P1からP5までの間隔は150、75、250、90cmとなり、これを現存している二の丸御殿平面図に照らし合わせると図13のようになるものと考えられる。



写真17 二の丸調査風景 (本丸より)



写真18 二の丸Aトレンチ遺構検出状況



写真19 二の丸Aトレンチ割栗石及びピット



写真20 二の丸Bトレンチ遺構検出状況



写真21 二の丸BトレンチII層上面のキャタピラ痕

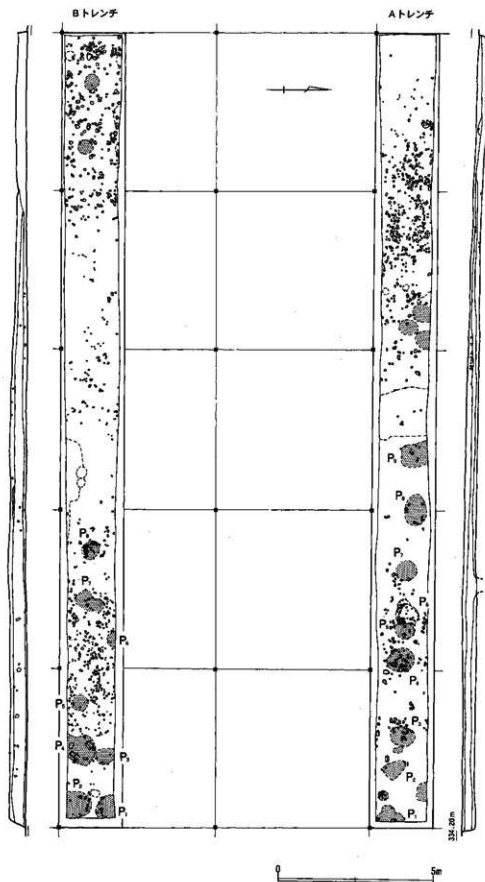


図12 二の丸A・Bトレンチ平面図 (1:120)

二の丸五十五合之圖

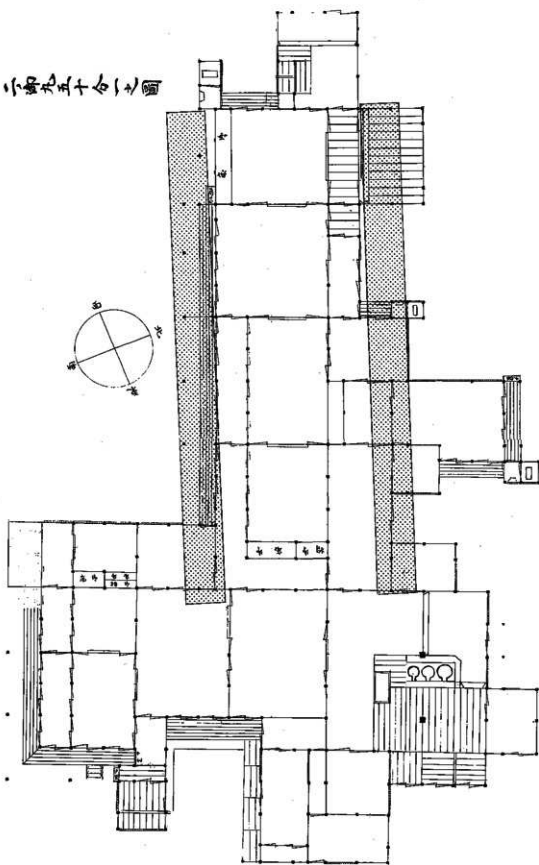


図13 二の丸御座敷取図及びトレンチ部定封圖 (1:200)

(2) 二の丸Cトレンチ (写真22・図14)

当該地は、二層の二の丸門があったとされる場所である。現況は通路及びコンクリートの縁石によって区切られた芝地で、調査する箇所は限られていた。通路は、三の丸に向かって下っており、近世における城内通路とほぼ同じである。ただし、雨水等によりかなり土砂が流されているように見受けられ、当時の生活面より削られている可能性がある。トレンチの場所は、コンクリートの縁石によって囲まれた芝地内に設定した。縁石のためにやや不定形なトレンチとなった。

調査の結果、現地表面より70cm下位から割栗石が確認された。範囲も広いことから、二の丸門のものと考えられる。

(3) 二の丸Dトレンチ (石垣修理に伴う調査) (写真23・図15)

二の丸から帯曲輪に続く部分で、本丸に上がる虎口西側部分である。ケヤキの大木が石垣を崩していたり、石積みに膨らみが目立つ箇所でもある。石積みの下端レベル確認のために調査を実施した。トレンチ規模は2×1mである。

調査の結果、石積みは地表下30cmで終わっている。地表に現れている石が石積みの最下段の石でその下には小さな石が安定させるために部分的に入っているに過ぎない。

石垣のすぐ前面にはかつて施行された排水施設により破壊されていたが、残されている部分においては小礫が数センチの厚さで入っているのみである。

(4) 二の丸Eトレンチ (石垣修理に伴う調査) (写真24・図16)

本丸北壁の部分で、最も長く石積みされている箇所である。トレンチの規模は3×1mである。

石垣は、現地表面より約80cm下位まで入っているが、これはむしろ、後世において盛り土したためと考えられる。根石の押さえとして前面にも大きな石が置かれており、調査した前方3mまで大小の石が敷かれている。



写真22 二の丸Cトレンチ遺構検出状況

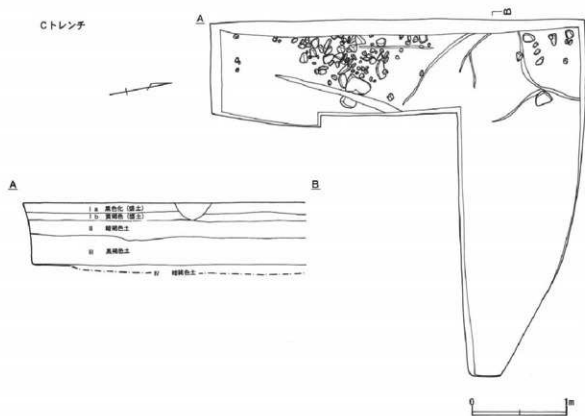


図14 二の丸Cトレンチ平面図 (1:40)



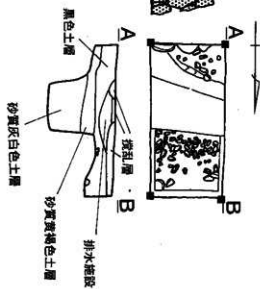
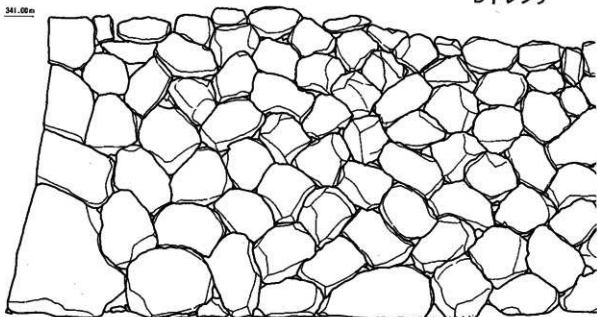
写真23 二の丸Dトレンチ



写真24 二の丸Eトレンチ

541.00m

Dトレンチ

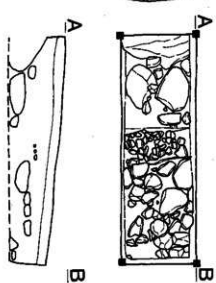
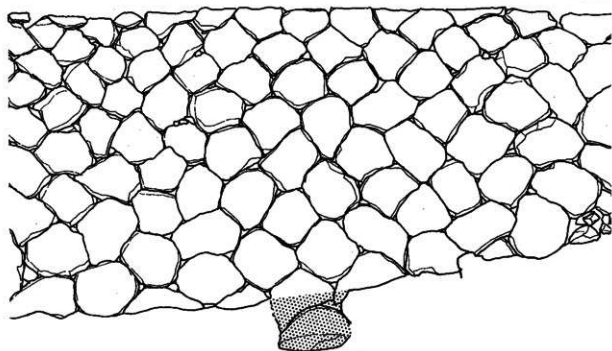


0 1m

図15 二の丸Dトレンチ平面図 (1:50)

Eトレンチ

342.00m



0 1m

図16 二の丸Eトレンチ平面図 (1:50)

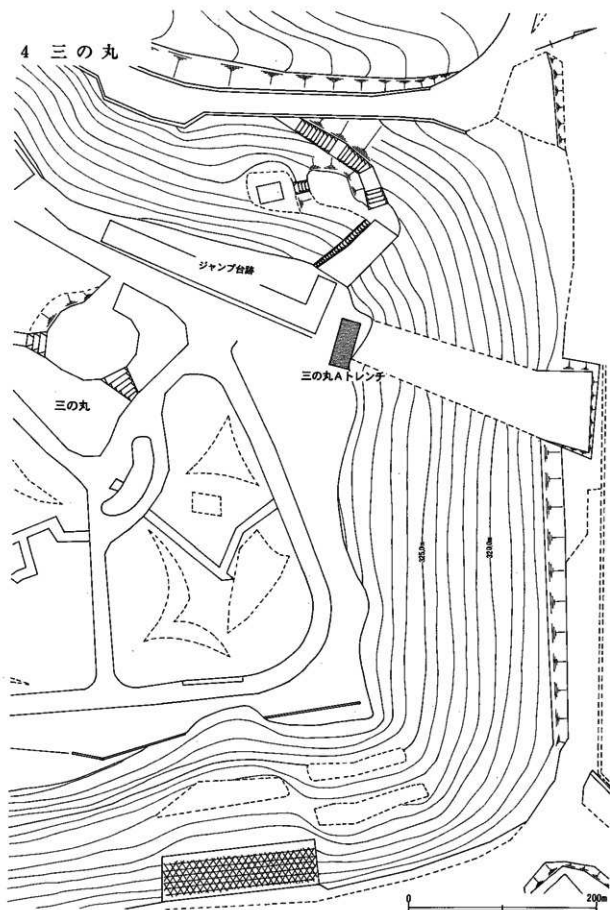


図17 三の丸トレンチ位置図 (1:400)

(1) 三の丸Aトレンチ (図17・18・写真23)

三の丸には、正保の絵図や近世後期の絵図には西北端に二重櫓が記されており、本丸二重櫓とともに近世前期から幕末まで飯山城のシンボルとして存在していたらしい。三の丸地区は全面花公園として整備されており、かつてはジャンプ台も作られていた(図17)。また、正確な記録は見つからないが、北側に造成されている城北グラウンド造成により5~10m程度削土されたとの多くの証言がある。このため、すでに削土されて失われている可能性も考えられたが確認するためトレンチを設定した。

トレンチは4×2mで、旧ジャンプ台カンテ付近である。工事のためか約30cm下位まで攪乱が認められた。調査は約40cm掘り下げたが、石等が検出されたものまばらであり建物跡と推定するには至らなかった。

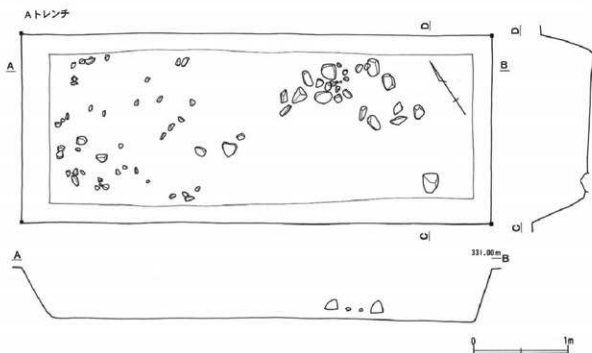


図18 三の丸Aトレンチ平面図 (1:40)



写真25 三の丸調査風景

5 遺構の配置

今回の確認調査により、建物跡と推定されたものは二の丸御殿跡、本丸二重櫓跡、本丸門跡、二の丸門跡の4箇所である。いずれも一部のみの確認のため該当施設と確定するものではなく、また全体が残されているのかどうかについても明らかではない。ただし、現状から考えると二の丸御殿はほぼ全体が良好に残されていると判断される。本丸二重櫓は水道施設があったため北側の大部分は消滅し今回検出した遺構のみと考えられる。本丸門・二の丸門については一部通路により削土されている可能性がある。

これら4建物について、その配置を示したものが図19である。今まで絵図のみでしか推定できなかった城内の建物が、実際に基礎部分だけといえども明らかにし得たことは大きな成果であり、今後の整備計画策定に向けて大きな前進となった。

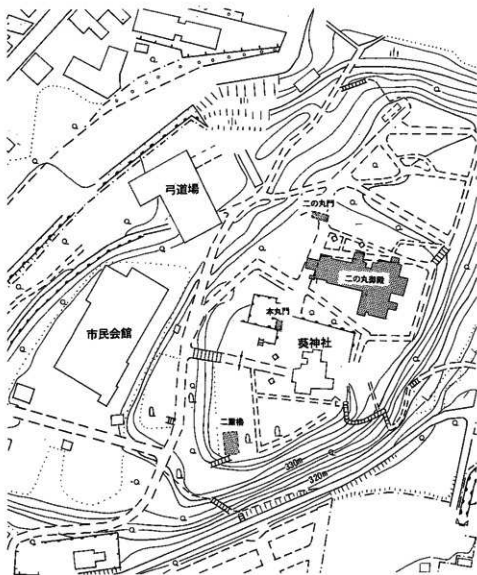


図19 確認遺構位置図 (1:2000)

Ⅲ 出土遺物

限られた部分のみの調査であったが、各トレンチより土器・陶磁器をはじめ鉄製品・銭貨などが発見された。一部築城以前の遺物も発見されたが、近世における城内の暮らしの一端が明らかとなった。

土器・石器 (写真26)

飯山城跡が、弥生時代の遺跡でもあることはすでに報告されている「宮崎博 1970 飯山城址発見の中期弥生式土器 長野県考古学会誌9」が、発掘により発見されたのは今回が最初である。出土した土器は、本丸A・Bトレンチからまばらに出土したもので、調査の性格上遺構確認面までは調査しなかった。発見された遺物は、1が旧石器で、本丸Eトレンチ出土。2は縄文中期土器で、3～8は弥生中期土器の甕・壺破片である。

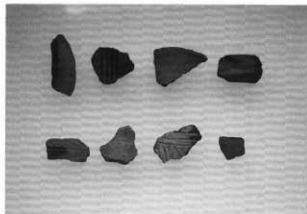


写真26 土器・石器

陶磁器碗 (写真27)

陶磁器には、碗・皿・小鉢・徳利などが出土している。すべて破片であり、全形をうかがえるものはない。1は仏飯器で、御殿と推定される二の丸Aトレンチより出土している。2の小鉢底部には、「太明宣」の銘がある。3・4は碗、5・6は徳利である。9は色絵染付けで、二の丸Aトレンチ出土。

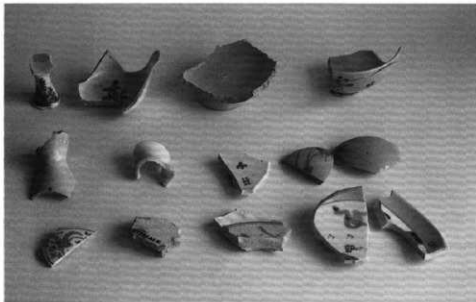


写真27 陶磁器

陶器擂鉢 (写真28)

無釉の焼き締め陶器で、いずれも肥前系の擂鉢である。底部を確認できるものは総て高台はないので、肥前擂鉢の編年からすれば近世前記ないしは中期におかれるものと思われる。帯曲輪Aトレンチを中心に、二の丸Bトレンチでも出土している。

陶器片口鉢 (写真29)

液体を容器に移すために用いられるもので、本丸Fトレンチの出土である。瀬戸美濃製品であろうか、灰釉で器壁も非常に薄い。

煙管・銭貨 (写真30)

刻み煙草を喫煙するためのきせるである。本丸Cトレンチ及び帯曲輪Aトレンチの出土である。雁首が緩やかに立ち上がり朝顔状に開く形態は、近世中期頃のものであろう。

銭貨は意外と出土しなかった。寛永通宝と天保通宝が各1枚である。寛永通宝は、本丸Fトレンチの出土で、背は無文である。天保通宝は本丸Aトレンチの出土。背に當百文(異字体)の文字がある。



写真28 陶器擂鉢



写真29 陶器片口鉢

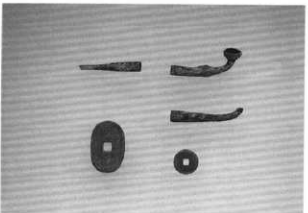


写真30 煙管・銭貨

報告書抄録

ふりがな	ながのけんしせき いいやまじょうあと いこうかくにんちょうさほうこく							
書名	長野県史跡 飯山城跡 遺構確認調査報告2002							
副書名								
巻次								
シリーズ名	飯山市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第67集							
編著者名	望月静雄							
編集機関	飯山市教育委員会							
所在地	〒389-2292 長野県飯山市飯山1110-1 電話0269 (62) 3111 内線363							
発行年月日	平成14年3月29日							
ふりがな 所有遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いいやまじょうあと 飯山城跡	いいやまじょうあと 飯山市大字 いいやま 飯山2756ほか	20213	294	36度 51分 10秒	138度 22分 8秒	20010611 5 20010914 2001105 5 2001118	194㎡	遺構確認調査(学術調査) 石垣修理に伴う調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
飯山城跡	城跡	中世・近世	二の丸御殿跡 本丸二重櫓跡 本丸門跡 二の丸門跡	陶磁器・銭貨・鉄製品		確認のため一部のみの調査であったが、遺構の多くが残されている事が判明した		

飯山市埋蔵文化財調査報告 第67集

長野県史跡 飯山城跡
遺構確認調査報告

平成14年3月29日発行

発行・編集 飯山市教育委員会

印刷 株式会社おずき書籍

